

令和2年度 学校経営計画・学校評価

□4月6日提出 □10月16日提出 ■3月29日提出

高知県 の教育 の基本 理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働
	「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間の育成を目指す学校。		目指すべき姿を実現するための取組等
生徒像	1 確かな学力が定着した生徒 2 逞しく豊かな心身を持った生徒 3 社会に貢献する志をもった生徒 4 大局的な視点を持った生徒		1 学びの習慣の確立と学力の向上 2 特別活動と部活動の充実 3 グローバル教育の推進 4 英語運用能力の向上と国際交流活動の推進 5 学習環境の整備 6 関係機関との連携・協力 7 探究学習を通じた教育振興

学校番号	26	高知西	高等学校	課程	全
学校関係者評価					
【学力の向上】 評価 【 B 】 大学入試については新入試1年目となったが、学校としてしっかり対応できお預かり推薦入試・一般入試とも成果をおけている。高知西高校としては若い年となるがこの調子をしつめと維持していただきたい。また、英語運用能力の向上については、英語科だけでなく普通科にも力のある生徒が見られ、今年度も素晴らしい成果を上げているのではないかと。家庭学習の定着は、単なる課題ではなく、授業と連動する形であり、家庭学習の意義を生徒に認識させるなど、学習のあり方や方法を含め地道な指導や工夫で大学進学の実績につながるようお願いしたい。					
【社会性の育成】 評価 【 B 】 本年度も部活動は加入率が非常に高く、例年であれば、多くの部活動で好結果が期待できたと思いますが、コロナ禍でのクラブも試合や発表会がのきなみ中止となり非常に残念であった。部活動は学校の活気につながるもので、来年度はコロナ禍も収まり生徒たちの活躍を期待したい。SGHで培った探究学習は新規事業に引き継がれており、問題発見能力や解決能力などの社会性も育っていると思われる。					
【チーム学校】 評価 【 B 】 本年度はコロナ禍で、日々対応が大変だったと思うが、校長を中心に教職員が協力し合って教育活動に取り組んでいる。同じく新規事業に引き継いだ探究的な学習も、コロナ禍で非常に制約があったと思うが、リモート対応等工夫を凝らした対応できている。大学進学の実績にしっかりとつながっているため今後も頑張ってほしい。来年度は高知国際高校の一期生を迎え、ますます忙しなると思うが、高知西高校の成果はしっかりと高知国際高校に引き継いでほしい。					

【重点項目：生徒に対する取組項目】

育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力的向上 ○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	【1年】 ①学習時間 90時間/月 (R1: 60時間) ②通明けテストの合格率100% (R1: 80%) ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 (R1: 51) 各教科の平均点偏差値53.0以上 (R1: 50程度) 図書貸出数600冊/年 (R1: 413冊) 【2年】 ①学習時間 100時間/月 (R1: 41時間) ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 (R1: 49) 各教科の平均点偏差値53.0以上 (R1: 50程度) ③図書貸出数600冊/年 (R1: 292冊) 【3年】 ①国公立大学合格者100名以上 (R1: 88名)	・宿題の実行と提出を確認し、学習習慣の定着を図る。 ・手帳の効果的な活用方法を学び、タイムマネジメントの能力を育成する。 ・学習時間調査を行い、個別指導を実施する。 ・教科の取組を学年団でも共通認識を持ち、連携を強化する。 ・学年通信を発行し、生徒の取組を評価するとともに、学習意欲の向上を図る。 ・グローバル探究でリサーチペーパーを作成することにより、考える力や判断力、表現力の向上を図る。 ・リサーチペーパーの作成を通して、図書の活用を推進する。 ・推薦I・AOの面接・小論文指導を全教職員で対応する。 ・大学入試新テスト、新学習指導要領を踏まえ、各教科で研究・協議を行い、思考力、判断力、表現力を高める授業に努める。	評価時期:1学期末(8月下旬に職員会議で中間評価を実施) ●通明けテストの合格率 (2回目→3回目) 臨時休業1回目×79%→68%(1年国語全体) 97.1%→96.7%(1年英語普通科) ●7月模試3教科の平均偏差値 48.8(1年生) 49.0(2年生) ●学習時間(期末試験前/中) 79分/155分(1年) 91分/204分(2年) ○図書貸出数(1学期末) 1年622冊 2年131冊 3年160冊 *学習意欲の定着には、教科及び学年の横の連携を強め、目的意識、学習意欲を高め、徹底する必要がある。	・臨時休業中に教員側の教育プラットフォームClassiの活用方法が広がりを見せ、学習記録のチェックだけでなく、学年通信や問題の配信、授業の配信、生徒は模試の振り返りに活用するなど、今後のコロナ禍にも備えた取組を定着させる。 ・入学以来の個々のデータを集積し、特に上位層と下位層に重点を置き、変化等への早期のアプローチを行う。(1年) ・学習習慣の定着していない生徒への個別指導を徹底する。(学習時間の確認、声掛け等)定期テスト前の学年集会や学年通信等で学習時間や成績の実態や計画的な学習の必要性を伝える。(2年)	・家庭学習時間(1日当たり) 1年:定期試験前 61分 定期試験中 147分 2年:定期試験前 89分 定期試験中 199分 ・通明けテストの平均合格率 1年 英語 普通科 83.6% 英語科 98% 国・数・英3教科の平均偏差値1月記述結果 1年 3教科平均 50.5 2年 3教科平均 46.7 国語 52.3 数学 47.7 英語 51.9 2年 3教科平均 46.7 国語 50.4 数学 43.9 英語 50.0 ・図書貸出数 1年 786冊 2年 383冊 3年 593冊 ・国公立大学合格者数 104名(3月22日現在)	・学習意欲の向上を図るため、進路目標の早期の決定を促すとともに、LH等を活用して進路意識を高める機会を増やす。 ・教育プラットフォームのClassiを活用して学習の自己管理できるように指導を徹底する。また、模試との連動で、各生徒が弱点補強できるようにする。 ・国公立大学に合格できる実力をつけるためにも、模擬試験の分析結果を教科士つかりに行い、授業や定期テストにも反映する。また、教科のコンラプ自体を見直し、大学入学共通テストだけでなく、2次試験に対応できるようにする。
社会性の育成 ○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	【1年】 ①グローバル探究Iへの積極的・協力的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合30%以上 (R1: 52%) ③政治的教養として、社会の課題を見出し、協力的に追及し解決する態度を養う。 【2年】 ①グローバル探究IIへの能動的・積極的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合50%以上 (R1: 44%) ③政治的教養として社会の課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。 【3年】 ①社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合70%以上 (R1: 49%) ②政治的教養として社会の課題を見出し、探究し解決する力を養う。	【1年】 ・本県の地域課題を調査し、食を通じた地域創生モデルをグループで作成し、企業や地域の方などに発表する。 【2年】 ・国連が提唱する世界の諸課題SDGsの関連を意識しながら、生徒がグループ別にプロジェクトを立ち上げ、フィールドワークや成果発表会を行う。 【3年】 ・生徒が各自でテーマを設定し、個人で研究し、リサーチペーパーを作成する。 【全体】 ・学校が主催する国際シンポジウムでは、例年行われている海外からの招へいが困難な場合は、県内の留学生に参加をお願いして、テーマを決めてディスカッションを行う。	○職業人講話を通して、各事業所の取り組みを知るとともに、各事業所と連携し、社会貢献への意欲向上を図ることができつつある。(1年) ○生徒の興味関心に基づいて、探究テーマを設定し、各グループが探究活動を進めている。また、探究チームの人数を減らすことで、チーム内で考える時間をとり、探究の意義を生徒たちがとらえることができている。(2年) ○個人によるリサーチペーパー作成が終了。昨年度に比べ、進路指導部及び外国語科と連携をすることで、より進路に根差した取り組みができた。(3年)	・コロナ禍の中で、県内リサーチや大阪リサーチ等の校外活動が自粛されている。できるだけ校内において、校外で得られる経験ができるよう外部講師の効果的な招聘など、プログラムを修正する。 ・コロナ禍の中で中間行事計画の変更等もあり、授業時数の確保が難しくなっているため、探究テーマ設定の変更も視野に入れつつ、生徒の探究しやすい内容に変えていくよう担当者会で変更点の周知を図りながら指導を行っている。	【成果】 ・グローバル探究等の活動を通しての社会貢献の意識の高まり 全体 87.9% (R1 88.4% H30 83.7%) ・問題発見力や解決力が身に付いた。 発見力 全体 83.6% 解決力 全体 81.5% ・SGH成果発表会では1年生のボスターセッション、2年生代表の発表とにも最終年度と並び、初年度と比べるとレベルがかなり向上したとの外部評価をいただいた。 ・グローバル探究で身に付けたプレゼン力や思考力を活かす推薦・AO入試を積極的に志願する生徒が増え、合格率も上がってきた。(年度:合格率) H28 59.3%・H29 55.7%・H30 56.7% R1 58.3% R2 64.1 【課題】 ・SGH事業が終わって、新規事業へ応募しているが、その採択の可否に問わず、これまでのSGHで培った取り組みを精選して継続していく必要がある。	・来年度もグローバル探究の探究領域と各教科の関連性を見極め連携することで、探究と教科指導を可能な限り融合させる。 ・探究学習指導の教員間でのノウハウはかみ進んできたが、なお次年度以降も校内研修の実施等による教員の指導力の向上を図る。また、各教科における探究学習にも広げていく。 ・社会貢献活動や自己研鑽活動に生徒がより取り組めるように、コロナ感染対策も踏まねながら、情報提供やサポート体制を更に充実させる。

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善 主体的・対話的で深い学びにつながるよう、進路実現に必要な学力を身につける授業の実現	【学校評価アンケートにおいて】 ①「授業を通して学力が身につくと思う」の回答85%以上 (R1: 85.8%) ②「家庭学習に十分に取り組んでいる」の回答60%以上 (R1: 55.7%)	・グローバル探究(1年)・グローバル探究(2・3年)を通して、探究活動を実施する。 ・全学年の教科会を定期的に行い、効果的な教授法等を共有する。特に大学入試新テスト、新学習指導要領を踏まえ、各教科で研究・協議を行い、思考力、判断力、表現力を高める授業に努める。 ・教科担当による面談を実施する。	・コロナ禍で、時間数の変更を含めた大幅な計画の見直しが必要となったが、これまで積み重ねてきた経験を活かし、柱となる生徒の探究活動には積極的に取り組んでいる。 ・教科会は定期的に行っており、生徒の学習状況が共有されている。	・教育課程研究協議会の内容を踏まえ、コロナ禍で1学期年次研修の授業研究から実施できなかったが、2学期以降は全教職員が公開授業や教科会を通して、思考、判断、表現力の視点で研究を深める。	○学校評価アンケートにおいて ①「授業を通して学力が身につくと思う」の回答84.0% ②「家庭学習に十分にに取り組んでいる」の回答51.9% *年度当初の目標①は達成、②は昨年度よりは若干低下し、目標値にも及ばなかった。 ○MYP・DPのユニットプランナー作成を通じた各教科の探究的な学習の研究開発 ・本校の各教科担当教員で高知国際高校グローバル科の探究コース・DPコースのMYP・DPコースのユニットプランナーを作成する中で、評価基準からの思考、判断、表現力を養う授業の方法を考えている。	・学校の評価・評定だけでなく、外部試験での結果にもつながるよう、模擬試験の分析結果を教科でつかりに行い、授業や定期テストにも反映する。 ・教育プラットフォームのClassiを活用して学習の自己管理できるように指導を徹底する。また、模試との連動で、各生徒が弱点補強できるようにする。
生徒理解 生徒が生き生きと学校生活を送ることができる環境や体制の充実	①皆勤者の割合50% (R1: 48%) ②学校適応1年100% (R1: 98.2%) ③学校評価アンケートにおいて「入学してよかった」の回答90%以上 (R1: 91%)	・入学時の対応のため、中学校への聞き取りの実施 ・高校生活応援プログラムの実施(4月) ・定期的な校内支援委員会の実施(毎週) ・高校生活についてのアンケートの実施(5月、11月)	◎皆勤 1学期末(昨年度) 1年 87.1%(69.0%) 2年 72.6%(57.6%) 3年 73.2%(55.9%) ◎学校適応 1年 100%(1名転学) ◎部活動加入率(昨年度) 1年 87.8%(94.3%) 目標9割以上 2年 93.6%(91.7%) 目標8割以上	・コロナ禍の長期臨時休業後を心配したが、各学年とも例年より皆勤が多い反面、2年生を中心に長欠傾向になっている生徒もおり、SC・SSWを含め生徒サポート部との連携や学年団での情報共有を図り、ホーム担任を中心に個々に対応した支援を継続する。	・皆勤率 1年141人(50.7%) 2年 127(46.0%) 3年121人(44.3%) ・学校適応 1年 長期欠席者2人(適応率99.3%) ・学校生活アンケート 「入学してよかった」の回答 94%	・生徒の状況に応じた研修会を実施する。 ・校内連携の強化。特に校内支援委員会のメンバーとの連携強化を行う。 ・定期的なサポート連絡会(部会)の開催する。 ・チーム学校として、気になる生徒、見守りが必要な生徒については、システムに情報を一元化し、教職員全体で情報共有を行うなど生徒支援に継続して取り組む。
学校の振興 SGH事業で培った探究学習を活かし、国公立大学への進学実績の更なる向上を図る。 英語運用能力の向上と国際交流活動を通じたグローバル教育の推進	【1年】(GTECを指標とする) ①英検準2級(CEFR:A2レベル)程度:普通科50%以上、英語科100%取得 (R1: 66%) (R1: 90%) ②英検2級(CEFR:B1レベル)程度:英語科20%以上取得 (R1: 18%) ③各種コンテスト入賞 ④将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合30%以上 (R1: 48.5%) 【2年】(GTECを指標とする) ①英検準2級(CEFR:A2レベル)程度:普通科80%以上取得 (R1: 76%) ②英検2級(CEFR:B1レベル)程度:普通科10%以上、英語科50%以上取得 (R1: 3.8%) (R1:34.2%) ③英語ディベート全国大会出場 ④将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合50%以上 (R1: 42.9%) 【3年】 ①英検2級(CEFR:B1レベル)程度:普通科20%以上、英語科100%取得 (R1: 18.0%) (R1: 80%) ②英検準1級(CEFR:B2レベル)程度:3名取得 (R1:6名) ③国公立大学合格者100名以上 (R1: 88名) *CEFR(セファール:語学力のレベルを示す国際標準規格)	・2次試験対策を年間計画に位置付けて、授業の中でも行う。 ・都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報共有や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ・1年次は、実践的な英語運用能力を身につけるため、多読・多聴・多話・多書を用いてバランスよく4技能の伸長を図り、外部試験でその到達度を図る。 ・2年次では教科書を活用した2次試験対策(読解や表現)を実施する。 ・3年次では、大学入学共通テストに備えた思考力、表現力を問う問題を意識した授業や生徒への課題を考えると、4技能の対応できる英語運用能力を養う。 ・SGH事業で培った国際シンポジウムでは、今後も海外の連携校等から生徒を招聘し、英語でのディスカッションを行い交流を図る。	◎英語運用能力の向上 *1年は中学時英検結果 2年は高1時GTEC結果 3年普通科は高2時GTEC・英検結果 英語科は本年度GTEC・英検結果 ◎CEFR:A2レベル(英検準2級) 1年 普通科 8名(3.3%) 英語科 18名(46.1%) 2年 普通科158名(66%) 英語科 24名(60%) ◎CEFR:B1レベル(英検2級) 2年 普通科 0名(0%) 英語科 7名(18%) 3年 普通科 9名(3.8%) 英語科 28名(73.7%) ◎CEFR:B2レベル(英検準1級) 英語科 3名7.9%(達成) (参考)普通科2名取得 ◎グローバル教育の推進 ・昨年度まで実施していた国際シンポジウムや海外リサーチ、オーストラリア語学研修、英語科のイギリス語学研修、海外からの長期、短期の留学生の受け入れ等すべてコロナ禍のため中止となった。県内の各種コンテストも同様に中止となっている。	・大学入学新テストに関しては英語の外部試験の活用こそ先送りにはなったが、総合型選抜や学校推薦1・2など、志願の条件に英語の外部試験が入っていることも多いから、今後もその周知を行うとともに、英検やGTEC等の問題に取り組む。既習事項などを指摘しながら説明することで、日々の学習とのつながりを意識させる。 ・国際シンポジウムが中止となったが、英語科及び普通科「英語課題探究」選択生徒は、グローバル課題について学び、ディスカッションやプレゼンテーションの演習に取り組んでおり、今後も生徒のモチベーションを下げないような工夫した取組を行う。	◎英語運用能力の向上 ①CEFR:A2レベル(英検準2級レベル)以上 1年 普通科 158名(65.8%) 英語科 38名(97.4%) 2年 普通科 200名(84.7%) 英語科 40名(100%) CEFR:B1レベル(英検2級レベル)以上 1年 英語科 4名(10.3%) 2年 普通科 23名(9.7%) 英語科 24名(60%) 3年 普通科 33名(14.0%) 英語科 34名(89.4%) CEFR:B2レベル(英検準1級レベル)以上 1年 英語科1名(10.5%) (達成) ②各種大会結果 ・高知県スピーチコンテスト フリアワー部門 3名(英語科) 日本文化プレゼンテーションコンテスト第1位及び2位 ・高知県スピーチコンテスト 即興部門 1名出場して1位(英語科) ・高知県高等学校国際教育生徒研究発表会 1チーム出場し、優秀賞(英語科) *本年度はコロナ禍で、様々な大会が中止 ③国公立大学合格者 104名(3月22日未現在)	・入学時にcan-do list等を活用して、高校3年間でどの力をいつまでに、どの程度つけるべきかを明確にする。 ・日々の授業や課題のほか、各種テストや検定試験などへの取組の大切さを日々伝えていく。 ・共通テストだけでなく、2次試験に対応できる力をつけるべく、シラバスを含め授業設計を念入りに考えておくこと。 ・4技能をバランスよく鍛える授業を継続して行う。 ・SGH事業の探究学習によりプレゼンの経験が豊富になり、今年度はコロナ禍で制限されたが各種コンテストへの参加が増えるなどの成果が出ている。教員の指導については、ネイティブ教員も含め、英語科全員で指導にあたる事が不可欠である。
働き方改革 教職員の健康を守り、研さんの時間を確保して、授業力向上等を図る。 働きやすい環境を整え、仕事の効率化を図る。	○年度途中から運営委員会、職員会において、ICT機器(タブレット)活用することで、印刷物、時間の省力化を図ることができたので、本年度は年度当初より活用し定着を図る。 ○年間360時間、月45時間以内の時間外勤務達成に向けて、昨年度時間外勤務の大部分が部活動指導に関わるものであったので、部活動外ラインや県の指針をもとに練習計画を量より質への転換を図る。	○会議等のICT機器(タブレット)活用はもとより、Classiを活用して、生徒・保護者への情報発信もペーパーレス化して印刷物や時間の省力化につなげる。 ○部活動については、県のシステムを活用しながら、面談等で管理職と部活動顧問間で確認をしながら量より質の転換を図る。	・タブレットによる会議は定着、またできるだけメールや掲示板を活用した資料提示など印刷物や時間の省力化につながっている。 ・コロナ禍による臨時休業もあり、4月から7月にかけて月45時間の時間外勤務者の割合は4.2%であった。しかし臨時休業明けからは、部活動指導を中心に月45時間を超える時間外勤務者の数が増えつつある。	・今後もタブレットによる会議を継続実施し、できる限りペーパーレス化を行い、印刷等の時間の省力化を図る。 ・個別面談で、時間外勤務が多い教員については改めて部活動を含めた業務の見直し、効率化を話し合いを行った。コロナ禍により、多くの大会や合宿等が実施されなかったため、例年と比べると部活動に関する時間外は少なかった。一方、推薦入試の指導に係る時間外が多くなる結果となった。	・タブレットによる職員会議は定着し、印刷に係る時間や印刷紙の大きな節約となり、一定業務量の削減につながった。 ・個別面談で、時間外勤務が多い教員については改めて部活動を含めた業務の見直し、効率化を話し合いを行った。コロナ禍により、多くの大会や合宿等が実施されなかったため、例年と比べると部活動に関する時間外は少なかった。一方、推薦入試の指導に係る時間外が多くなる結果となった。	・タブレットの活用は今後も促進する。 ・来年度のコロナ感染の状況にもよるが、部活動の指導については、年間の大会スケジュールを踏まえ、量より質の練習計画(定期的な休みを含む)への転換を今後も図ってもらうよう継続して指導・助言を行う。